

「国司館と家康御殿（国史跡武蔵国府跡御殿地地区）の整備と活用を考える」

作業部会の進め方（素案）

1 目的

府中市は、今から1300年前の奈良時代、武蔵国府が置かれ、東国の政治、経済、文化の中心として発展してきましたが、「武蔵国府のまち」としては、府中刑務所や東京競馬場と比べて、認知度の低さは否めません。

歴史的には、国史跡武蔵国府跡をはじめ、国内最大最古の上円下方墳である国史跡武蔵府中熊野神社古墳などの史跡や重要文化財が点在し、それらを訪れると、都市の喧噪のなかに、悠久の歴史を感じることができますが、各所のネットワークや訪れた人へのホスピタリティの面から、必ずしも史跡を活かしたまちづくりが行われているとは言い難い面もあります。

また、その周囲にはいわゆるロードサイドショップが押し寄せ、経済の原理の前に景観の保持が危惧されています。さらに、近年、市の人口の増加に象徴されるように、府中市への新住民が増加し、国府のまち府中の歴史そのものへの関心、愛着が希薄になっているのが現状といえます。

そこで、武蔵国府の国司館と徳川家康府中御殿が発掘された「国史跡武蔵国府跡御殿地地区」について、文化財として整備するだけでなく、府中という武蔵国（多摩）の中心で、1年を通してJR府中本町駅前にぎわいと魅力ある空間として活用するために、具体的な検討を行う作業部会を設置するものです。

★この貴重な史跡の整備・活用は、今まで行われてきたハード面の整備ありきではなく、まずは、将来的な活用（維持・管理含む）を見据えた具体的な検討を行っていきたいと考えております。この作業部会が地元市民を中心に、様々なご意見をうかがえるような場にしていきたいと思いますので、ぜひご協力をお願いいたします。

2 具体的な取組と今後の進め方

- (1) 月1回程度、来年3月までを目標として、テーマを決めて検討していく。
- (2) 武蔵府中熊野神社古墳保存会のような、市民主体の史跡の活用が現になされている団体の取組事例も参考としながら、また、全国の先進事例を調査研究しながら、具体的な検討を行っていく。
- (3) 地元市民を中心として、多摩地域の具体的な事例も学びながら、検討を行っていく。

※具体的なメンバー構成等は、協議会でおはかりいたします。